

## 丹波縄文の森塾 第9日目活動報告（令和5年12月16日）



天気：曇り。

今日は、丹波縄文の森塾の年末の恒例行事となった餅つきとお正月に飾るしめ飾りづくりの体験でした。

お餅にするもち米は、塾生が田植えをして、秋には稲刈り、脱穀をしたお米です。今年は17kgの収穫がありました。10kgのもち米を前日からたっぷりに水につけておき、蒸し器を使って蒸し上げました。



蒸しあがったもち米はケヤキの臼に入れ、交代しながら、杵で「ぺったん、ぺったん」とつきました。つきあがったお餅は、小さくちぎり、あんこを包んで丸め、あんこ餅にしました。

次に、シイタケの原木となるクヌギの伐採と枝打ちに挑戦しました。まず、班長が交代で、直径18cmもあるクヌギにのこぎりで受け口と追い口の切込みを入れ、予めかけておいたロープをみんなで力を合わせて引っ張り、倒しました。その後、のこぎりで枝を払っていきました。枝を払った原木は、次回の森塾で玉切りをします。



昼食は、みんなで作ったお餅と丹波黒豆で作った味噌汁です。お餅は、あんこやきな粉、だいこんおろし、みらし団子風のたれをつけてお腹一杯いただきました。

午後からは、杉本自然体験活動サポーターの指導でしめ飾りづくりにチャレンジしました。

杉本さんに、今年の秋に塾生が刈り取った稲藁を「めがね」の形に編んでいただき、縁起物の稲穂、ウラジロ、紙垂（しで）、みかん、水引をつけました。

水引をあわじ結びにして、みかんをつけるのは難しかったですが、サポーターに手伝ってもらい、りっぱなお飾りが出来上がりました。

